胸部・循環研究奨励賞
（砂 田 賞）

溝口　博喜

略　　歴

昭和47年８月21日生
平成12年３月31日　高知医科大学医学部医学科卒業
平成12年４月１日　岡山大学医学部附属病院循環器内科勤務
平成12年９月１日　岡山労災病院内科勤務
平成14年９月１日　福山循環器病院循環器科勤務
平成16年９月１日　岡山大学医学部附属病院循環器内科勤務
平成19年９月１日　国立病院機構岡山医療センター循環器科勤務
平成25年３月25日　岡山大学大学院医歯薬総合研究科（博士課程）修了
現在に至る

研 究 論 文 内 容 要 旨

慢性血栓塞栓性肺高血圧症（CTEPH）は外科的血栓内膜摘除術（PEA）が唯一の治療法である予後の悪い疾患であるが、手術困難な CTEPH 患者に対しては内科的に肺動脈バルーン拡張術（BPA）が行われてきた。しかし合併症である再灌流性肺障害のコントロールに難渋し、死亡率も PEA のそれを凌駕することができなかったため BPA が現在まで普及するには至らなかった。そこで我々は手術困難な重症の末梢型 CTEPH 患者 68 名に対して、BPA を行いその効果を評価した。我々の改良点は、血管内エコーを用い至適バルーンサイズを選択したこと、再灌流性肺障害を減らすために肺動脈圧に応じて治療戦術を変更したことである。それにより術後再灌流性肺障害を最小限に抑えるとともに、平均肺動脈圧は 45.4±9.6mmHg から 24.0±6.4mmHg と著明に改善し、自覚症状も改善した。

従来の BPA とは一線を画した我々の手法は、今後難治性疾患である CTEPH の治療手段の一つとなり得ると考える。